



白内障

治療で視力回復が望めます

「光がまぶしい」「見えにくくなった」「モノが二重に見える」と最近感じている人はいらっしゃるかもしれませんか。それは白内障が原因かもしれません。

目をカメラに例えると、レンズに当たるのが水晶体です。水晶体は透明で光を透過し、フィルムに当たる眼底の網膜もうまくに光を集め、像を結ぶ働きを持っています。

透明なはずの水晶体が濁ってくると、光が眼底に入る前に散乱さんらんされて網膜に像を結ぶ働きが弱くなり、かすんで見えるようになります。濁りがひどくなれば、水晶体を通る光の量が減るため網膜に光が届きにくくなり、視力も下がります。この水晶体の濁った状態を白内障といいます。

一度濁ってしまった水晶体は元に戻らないので、根本的な治療は手術しかありません。点薬は白内障の進行を遅らせるだけです。

手術では水晶体を取り除い



Copyright: Santen Pharmaceutical Co., Ltd.

た後に眼内レンズがんぱ(人工水晶体)を挿入します。眼内レンズには遠くや近くにピントを合わせる力が備わっていないため、術後には遠方・近方用の眼鏡が一般的に必要です。

術後1〜2カ月間は点眼と定期的な通院が必要です。また、数年経ってから水晶体の膜が徐々に濁り、視力低下を生じる場合があります。これを後発白内障といい、この場合はその濁りをレーザー治療で除去します。

白内障は適切な治療により視力の回復が望める疾患です。施設によって異なりますが、入院せず日帰りでの手術も可能です。見え方に不安のある人は、まず気軽に近くの眼科専門医に相談してください。

吹田市医師会

岡田

あだち